



## わが子への接し方を学ぶ

◆ 家庭教育講演会・映画会を開催 ◆

家庭教育は、とすれば親が真剣になればなるほど過保護にしまったり、干渉しすぎたりしがちです。

今まで行ってきた子どもへの接し方に間違いがなかったか……いま一度振り返ってみるよいチャンスです。みなさん誘い合わせのうえご参加ください。

日 時 3月11日(土) 受付1:30~1:50  
講演2:00~3:30  
映画3:40~4:15

会 場 町文化会館・集会室  
演 題 マ「親が変われば子が変わる」  
講 師 関谷次郎氏(元上堺小学校長)  
映 画 「聞いてよお母さん  
ーぼく自分が怖いんだー」

参加対象 小学生をもつ保護者

申し込みとお問い合わせは、教育委員会(☎82-1111)または文化会館(☎82-1351)へ。  
入場は無料です。

## 保護者が主体的に

## 楽しく学ぶ場として



社会教育指導員  
伊藤 はる

### 家庭教育学級について ②

◆ 子どもの発達と特徴(運動・知能・心・言語・情緒・素質の発見)

◆ こづかいの与え方

◆ 問題行動の兆候の特色

このような結果をみて、あなたはどのように感じますか。

「わたしだったらこんなテーマで」とお考えの方もいらっしゃるでしょう。それぞれ心に残る何かがあると思います。つまり、それがあなた自身の「テーマ」になると考えてよいと思うのです。

ふだんから、その「テーマ」を大切に、家庭内でできることを実行してみることで、ときにはテレビや新聞記事等の中からもヒントが生まれ、考えが発展することでしょう。

生涯学習の「がくしゅう」は、そのねらいから「楽習」と書くことが、発案時に論議されましたが、結局「学習」と書くことになったそうです。

楽しく習うことは、より学習効果を高めます。家庭教育学級の企画・運営をさらに工夫し、保護者が主体的に楽しく学ぶ場として実現していきたいと考えています。

前回、家庭教育学級は、悩みや希望を話し合い学び合う場である。生涯学習時代の家庭教育学級のあり方を求め、実現したいと申しました。

「話し合い、学び合う場」として、保護者がグループを作り、学級生として実践していくためには、それぞれがもつ悩みや希望などを目的意識をもつて捉えることが必要ですし、そこから始まり取り組むことに尽きると思います。

課題をつかむ参考として、昨年、町教育委員会が小学生の保護者全員を対象に行ったアンケートのうち「家庭教育学級を開催する場合、あなたならどのテーマに興味をもちますか」という質問に次のような回答がありました。上位7項目をご紹介します。

- ◆ 現代っ子の特色(しつけとけじめ)
- ◆ 人権問題(いじめ・差別など)
- ◆ 自主性はどのように育つか
- ◆ 家庭学習のさせ方